

**【福岡県北九州市】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	福岡県北九州市
担当課名	教育委員会生徒指導課
電話番号	093-582-2369

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	918,479人	部活動数	740部活
公立中学校数	62校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	R5.5 「北九州市部活の未来を考える会」を設置
公立中学校生徒数	22,161人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	R6中に策定予定

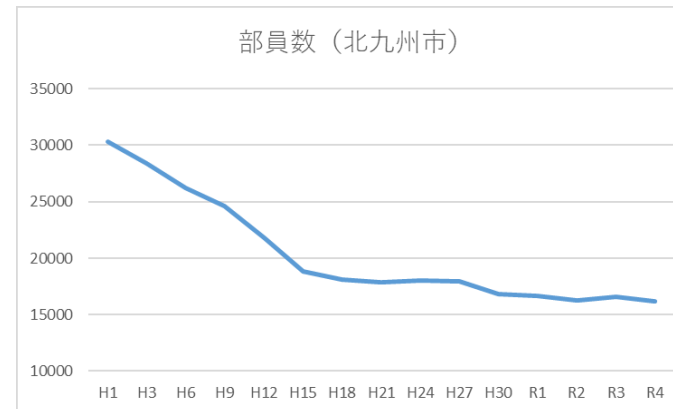
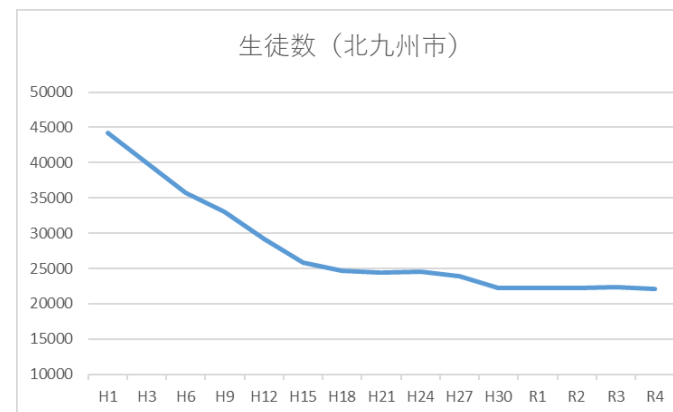
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

北九州市における学校部活動は、二極化の状態にある。都市部の学校では、生徒数が多く、満足いく活動ができる一方、地方では、少子化の影響から数人で部を編成しなければならない学校や生徒の希望する部が編成できない学校がある。また、共通の課題として、専門的な知識をもった顧問の確保が難しく、生徒の要望に応えられない部が多数存在する。以上の状況から今後継続して安定的に部活動を運営していくことは困難であると考え。

そのため、令和4・5年度に、スポーツ庁の委託を受け、実証実践を実施してきた。その中で、大きな課題となっているには、地域クラブ活動において「実施主体となる団体をどのように確保するのか」、「指導者をどのように確保するのか」、「活動場所をどのように確保するのか」、そして、「学校と地域クラブ活動の連携のあり方」である。

これら課題に対しての解決策を模索するため、令和5年5月に部活動地域移行検討会議である「北九州市部活の未来を考える会」を立上げ、有識者等より意見を聴取した。その結果、現在の学校部活動の規模を適正化するため「エリア型部活動を導入すること」、実施主体となる団体を確保及び質を担当するため「地域クラブ活動登録制度を整備すること」、指導者の確保及び質を担保するため「人材バンクを整備すること」、活動場所を確保するため「地域団体による学校施設使用のあり方を検討すること」等の意見をいただいた。

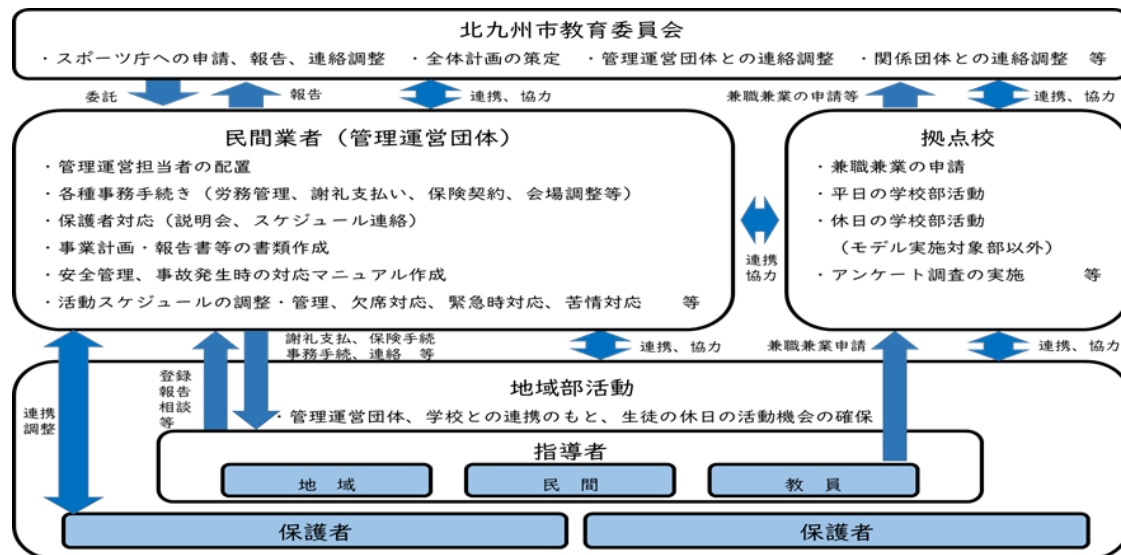
今後は、聴取した意見をもとに、「部活動地域移行推進計画の策定」や「北九州市部活動の在り方に関する総合的なガイドラインの改定」を予定している。



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（生徒指導課）

- ・ 事務局

● 首長部局（スポーツ振興課）

- ・ 関係団体との調整 等

年間の事業スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
モデル事業		モデル校決定 委託団体決定	学校と団体との調整			実践開始	協議会	協議会	協議会		アンケート調査 実践終了	
検討会議		第1回	アンケート調査	第2回	第3回		各部会第4回	第5回	第6回			

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

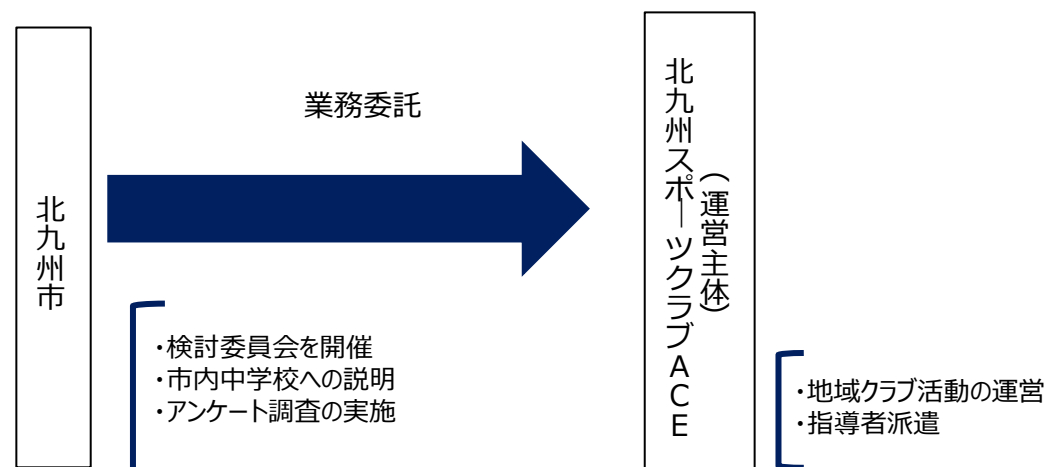
拠点校数	3 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	陸上競技、バレーボール、バスケットボール
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	3 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	北九州市立篠崎中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1 部活
地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営主体名	北九州スポーツクラブACE
運営類型	地域スポーツ団体運営型（総合型地域スポーツクラブ運営型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	陸上競技：月 5 回程度
指導者の主な属性	総合型地域スポーツクラブ
活動場所	北九州市立篠崎中学校グラウンド ほか
主な移動手段	徒歩
1 人あたりの参加会費等（年額）	0 円（徴収していない）
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 関係者との連絡調整について
 - ・ 学校と運営団体との定期的な協議会の開催し、生徒に関する情報や指導方法・指導内容を共有
- 運営団体の整備について
 - ・ 検討会議を開催し、どのような団体であれば実施主体となり得るかについて、意見を聴取

取組の成果

- 関係者との連絡調整について
 - ・ 指導方法や大会等の結果について、情報共有ができるようになった。
 - ・ 学校の求める教育面での指導と、指導員の求める楽しい活動に乖離があり、更なるすり合わせが必要である。
- 運営団体の整備について
 - ・ 検討会議に関係企業等を招聘し、意見を聴取した。
 - ・ 企業等から、「地域移行について理解ができていない。周知が必要。」との意見があったため、今後、周知の方法について検討する。

特に工夫した事項

- 関係者との連絡調整について
 - ・ 学校部活動を担う顧問と地域クラブを担う指導員の連絡ツールとして、SNSアプリを導入した。
 - ・ 生徒に関する情報や指導方法・指導内容を共有するため、定期的な協議会を開催した。

今後の課題と対応方針

- ・ 円滑な地域移行のため、学校と運営団体との情報共有のあり方を模索
- ・ 「部活動」の「地域移行」のため、教育的な意義を求める教員や保護者等が多いため、そのあり方を模索
- ・ 生徒、保護者、地域への周知のため、シンポジウムを開催

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- 指導者の量の確保
 - ・ 検討会議を開催し、「指導者の確保」についての意見を聴取
- 指導者の質の担保
 - ・ 検討会議を開催し、「指導者の確保」についての意見を聴取

取組の成果

- 指導者の量の確保
 - ・ 地域団体や保護者等が実施主体となる団体に対して、指導者の紹介を可能とするために「人材バンク」を整備する。
- 指導者の質の担保
 - ・ 地域団体や保護者等が実施主体となる団体に対して、質を単上げるために、一定の基準を設けた「地域クラブ認定制度」を整備する。

特に工夫した事項

- 指導者の量の確保
 - ・ 令和6年度以降、重点的に取り組む予定である
- 指導者の質の保障
 - ・ 令和6年度以降、重点的に取り組む予定である

今後の課題と対応方針

- ・ 指導者紹介のための「人材バンク」を整備
- ・ 指導者の質を担保するために「地域クラブ登録制度」を整備
- ・ その他、関係制度を整備

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 連携強化
 - ・ 検討会議のスポーツ部会を開催し、関係団体より意見聴取

取組の成果

- 連携強化
 - ・ 検討会議に関係企業等を招聘し、意見を聴取した。
 - ・ 企業等から、「地域移行について理解ができていない。周知が必要。」との意見があったため、今後、周知の方法について検討する。

特に工夫した事項

- 連携強化
 - ・ スポーツ関係団体に対し、ヒアリングを実施

今後の課題と対応方針

- ・ 競技団体やスポーツ関連団体、民間企業等との連携を図るため、説明会等の周知の場を設ける。
- ・ 各団体において、どのような連携の方法があるかを明確にする必要がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

- 内容の充実
 - ・ 2校2部活と1地域クラブ活動をモデルとし、実証実践を実施
 - ・ 生徒、保護者のニーズを把握するため、アンケート調査を実施

取組の成果

- 保護者アンケート調査の結果より（活動に関する要望）
 - ・ 専門の指導者より教えてもらいたい
 - ・ 保護者による当番がないほうがよい
 - ・ 初めてでも気軽に参加できるような、楽しむことを中心とした活動をしたい
- 生徒アンケート調査の結果より（活動に関する要望）
 - ・ 初めてでも気軽に参加できるような、楽しむことを中心とした活動をしたい
 - ・ 専門の指導者より教えてもらいたい
 - ・ 試合やコンクール等の回数を増やしてほしい

特に工夫した事項

- 実証実践について
 - ・ 本年度は、複数校の生徒が誰でも参加可能な「地域バスケットボールクラブ」を立上げ実践した。
 - ・ 「地域クラブ活動」として持続可能な活動となるよう、学校部活動をそのまま活用するのではなく、新たなクラブの立上げを行った。

今後の課題と対応方針

- ・ 学校と地域との連携を強化するため、コーディネーターを配置予定
- ・ 「地域クラブ活動」のあり方を検証し、立上げに関する内容を周知

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

資料1

「北九州市部活の未来を考える会」の意見の取りまとめ

北九州市教育委員会
令和5年12月15日

1 はじめに

生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を将来にわたって確保することを目的とし、学校部活動から地域クラブ活動への移行に向けて、有識者等から幅広く意見を聴取するため、これまで5回の会議を開催してきた。

本取りまとめは、現時点における、「北九州市部活の未来を考える会」の意見をまとめたものである。

2 現状と課題

学校部活動は、スポーツ・文化芸術に興味・関心のある同好の生徒が自主的・自発的に参加し、各部活動の責任者の指導の下、学校教育の一環として行われ、教師の献身的な支えにより、我が国のスポーツ・文化芸術振興を担ってきた。また、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図り、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、学校という環境における生徒の自主的で多様な学びの場として、教育的意義を有してきた。

しかし、本市においても少子化が進行する中、中学校の生徒数が減少し、「生徒が活動を選択できない」、「大会参加が困難な状況にある」など単一校では部活動の運営が困難な状況が生じている。また、学校が小規模化の傾向にあるため、教員数も減少しており、競技経験のある教員が必ずしも配置されているわけではないことなど、指導者の確保が困難な状況も生じている。

そして、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革（令和2年9月文部科学省）」では、教員の働き方改革の方向性として、「部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であること」、「休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に部活動の指導に携わる必要がない環境を構築すること」が示されている。また、教員の勤務時間は長時間化しており、教員を対象に実施したアンケート調査では、6割以上の教員が「報酬が支払われても指導したくない」との結果が出ている。

以上のことから、学校部活動は、今後、ますます活動が困難な状況となる可能性がある。

3 北九州市における部活動の望ましい姿（北九州市部活動の目標）

（北九州市部活動の在り方に関する総合的なガイドラインより）

- ・ より多くの生徒が入ることのできる部活動
- ・ 指導者が余裕と意欲をもって指導できる部活動

という観点から部活動指導及び運営の充実を図り、生徒の健全な心と体を育むことを目標とする。

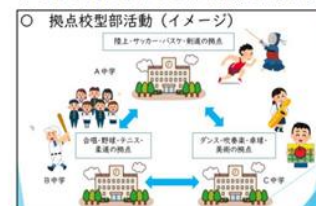
「北九州市部活の未来を考える会」では、これらの観点から、持続可能な部活動のあり方について協議してきた。

4 改革の方向性

(1) 拠点校型（エリア型）部活動の導入

○ 拠点校型（エリア型）部活動を導入し、北九州市立中学校の部活動数及び規模を適正化する。

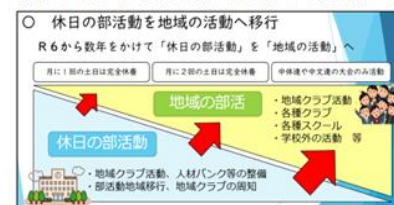
- ・ 複数校で部活動を運営する等、拠点校型（エリア型）部活動に整備
- ・ 拠点校型（エリア型）部活動に整備しつつ、地域移行・地域連携を模索
- ・ 令和6年度にモデルとして実証を行い、3年を目途に全市へ拡充



(2) 休日の学校部活動を地域クラブ等へ移行

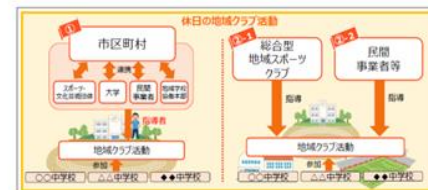
○ 休日の部活動を段階的に地域クラブ等へ移行する。

- ・ 地域移行については、まずは休日から開始
- ・ 3年を目途に段階的に地域の活動へと移行
- ・ 最終的には、学校部活動から地域クラブ活動等に移行



※ 地域クラブ活動イメージ図

（学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドラインより）



2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

(3) 各種制度を整備

- 「人材バンク」、「地域クラブ登録制度」等の制度設計を行うとともに、現行の制度についても再整備する。

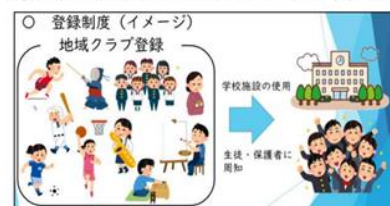
① 指導者登録制度の整備

- ・ 登録型「人材バンク」を整備
- ・ 学校部活動や地域クラブ活動等に対応
- ・ 指導者の量を確保するとともに、質も担保



② 団体登録制度の整備

- ・ 「地域クラブ活動」に該当する団体の登録制度を整備
- ・ 受け皿となる団体を確保するとともに、質も担保



③ その他制度の整備

- ・ 「地域クラブ活動」による学校施設利用のあり方を検討
- ・ 「北九州市部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」の見直し

5 今後について

「北九州市部活動の未来を考える会」の意見をもとに、今後、北九州市の部活動地域移行推進計画（仮）を策定する予定である。そのため、令和6年度も、引き続き「北九州市部活動の未来を考える会」を開催し、意見を聴取する予定である。

また、部活動地域移行については、各モデル実践やパブリックコメント等を実施することで、北九州市の実態を把握し、適宜、修正を加えながら検討していく予定である。

部活動地域移行に関するアンケート調査結果概要

北九州市教育委員会

1 アンケートの目的

北九州市では、部活動の地域移行の在り方を検討するため、外部有識者や学校、地域団体の代表者で構成される「北九州市部活動の未来を考える会」を設置した。本アンケートを通して、本市の状況を把握するとともに、本会議の資料とするため、アンケート調査を実施するもの。

2 調査期間

令和5年（2023年）6月6日（火）から6月23日（金）

3 アンケートの対象及び回答方法

対象	回答方法	対象数 (全数)	回答数	回答率
中学生	Microfoft Forms を使用	22,161人	12,460人	56.2%
中学校保護者		22,161人	7,388人	33.3%
教員		1,657人	1,155人	69.7%
小学校5・6年生保護者		15,340人	4,505人	29.3%

※ 中学生、中学校保護者、小学校5・6年生保護者の対象数は、北九州市HP掲載「市立学校・幼稚園 学級数及び園児数・児童数・生徒数〔速報値〕（令和5年5月1日現在）」より

※ 教員の対象数は、令和5年5月1日現在

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

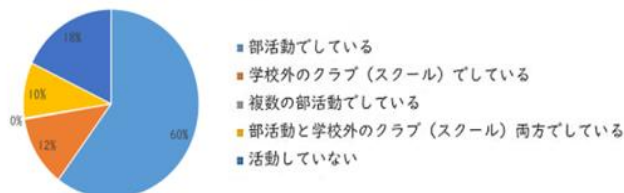
中学生 アンケート結果概要

Q① 中学校の部活動を地域移行してほしいですか。



中学生は、地域での活動よりも学校部活動として活動したいと感じている。

Q② 運動や文化に関わる活動をしていますか。



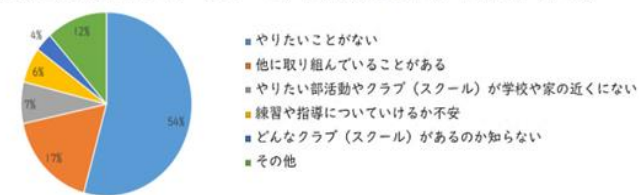
中学生の約8割が、学校部活動または地域のクラブ（スクール）で活動している。

Q⑬ 部活動や学校外のクラブ（スクール）での活動で、「もっとこうなったらいいのに」と思うことがあれば教えてください。

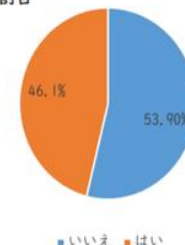


「気軽に参加できる活動がよい」、「専門の指導者から教えてもらいたい」、「練習場所を確保してほしい」等の回答が多い。

Q⑭ 部活動にも学校外のクラブ（スクール）にも所属していない理由は何ですか。



○ 「やりたいことがない」と回答した内、「課題等が解消すれば参加したいか」の回答の割合



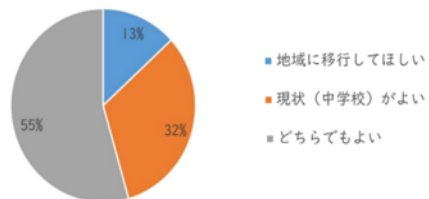
Q⑭で「活動していない」と回答した生徒の5割以上は、「やりたいことがない」と感じており、その内の4割以上は「課題が改善すれば（やりたいことがあれば）」参加したいと感じている。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

中学生保護者 アンケート結果概要

Q① 中学校の部活動を地域移行してほしいですか。



中学生の保護者は、地域での活動よりも学校部活動として活動してほしいと感じている。

Q⑫ 部活動や学校外のクラブ（スクール）での活動で、「もっとこうなっただい」と思うことがあれば教えてください。



「専門の指導者から教えてもらいたい」、「保護者の当番や送迎がない方がよい」、「初めての人も気軽に、楽しむことを中心とした活動」等の回答が多かった。

Q⑭ 部活動地域移行後の活動に参加する場合、毎月の会費としていくらまでの負担なら許容できますか。

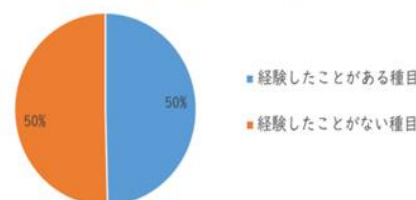


地域移行後の費用負担については、月1000円以下から月3000円程度までが約8割を占めている。

【部活動地域移行に関するアンケート調査結果概要】

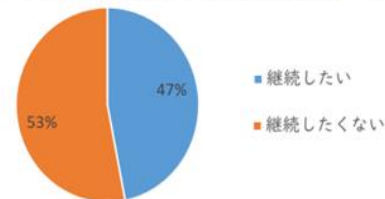
教員 アンケート結果概要

Q⑥ 現在、担当している部活動はご自身が経験したことのある種目ですか。

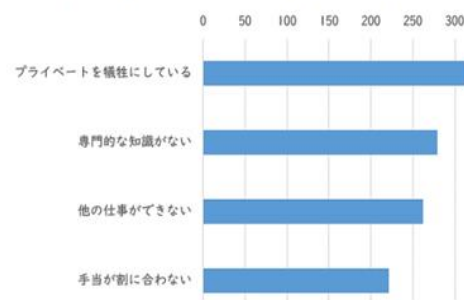


部活動指導に従事している教員の半数は、自身が経験したことのない種目を指導している。

Q⑧ 現在、担当している部活動の指導を継続したいですか。



Q⑩ 指導を「継続したくない」理由は何ですか。



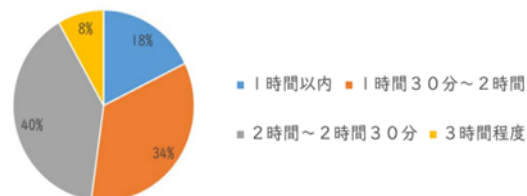
部活動指導に従事している教員の半数以上は、「プライベートを犠牲にしている」、「専門的な知識がない」、「他の仕事ができない」等の理由から、今後、指導を継続したくないと感じている。

【部活動地域移行に関するアンケート調査結果概要】

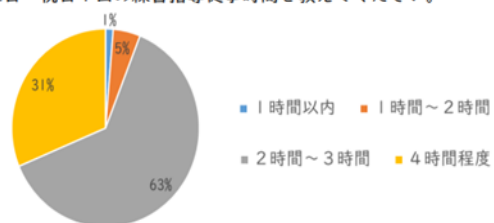
2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

Q⑮ 平日1日当たりの部活動従事時間を教えてください。



Q⑯ 土日・祝日1回の練習指導従事時間を教えてください。



Q⑰ 土日等の部活動従事業務で負担だと思う項目を教えてください。



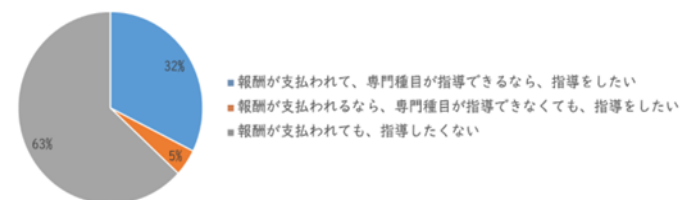
教員の多くは、平日は1時間半から2時間半、休日は2時間から4時間、指導に従事している。また、休日の「出勤自体」、「大会」、「練習指導」、「練習試合」等に負担を感じている。

Q⑱ 中学校の部活動を地域移行してほしいですか。



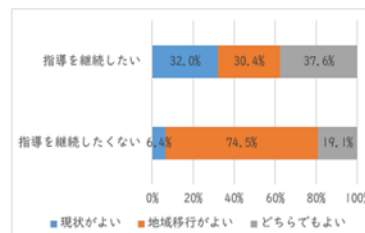
教員の約6割が部活動地域移行を望んでいる。

Q⑲ 報酬が支払われるなら、地域移行後も指導したいと思いますか。

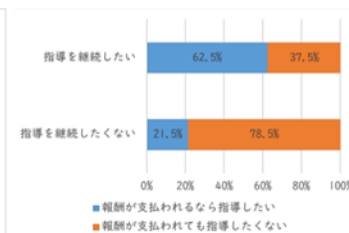


部活動地域移行後、報酬が支払われても指導に従事したくないと考えている教員が、6割強いる。

○ Q⑧「指導の継続希望有無」の回答結果と『「地域移行」及び「移行後の指導」を希望するか』の関係

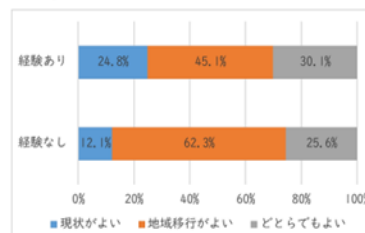


Q⑧で「指導を継続したい」と回答した教員のうち、3割以上が「地域移行」を望んでいる。

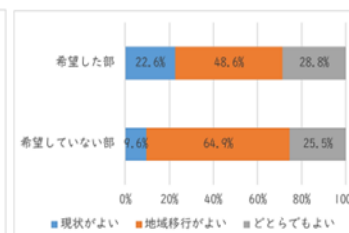


Q⑧で「指導を継続したい」と回答した教員のうち、3割以上が「報酬が支払われても指導したくない」と回答している。「報酬が支払われるなら指導したい」と回答した教員も一定数いる。

○ 「自身の競技経験の有無」、「希望した部活動かどうか」と「地域移行を希望するか」の関係



「競技経験の有無」、「希望した部活動かどうか」に関わらず、地域移行を望む割合は高い。

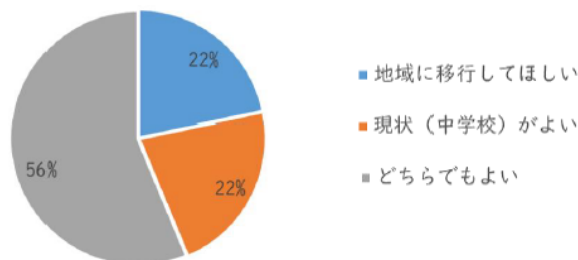


2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

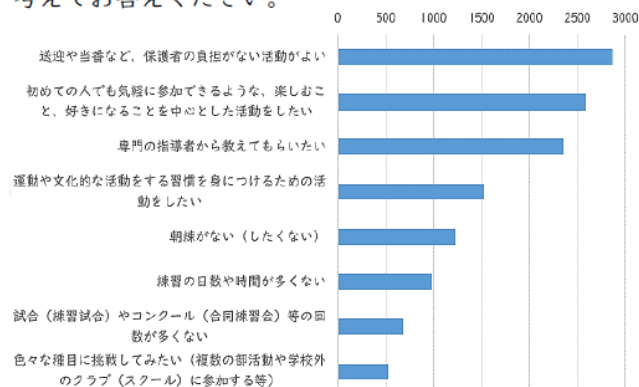
小学校5・6年生保護者 アンケート結果概要

Q① 中学校の部活動を地域移行してほしいですか。



小学校5・6年生の保護者（児童）は、地域での活動と学校部活動のどちらにも魅力を感じている。

Q⑨ 活動の内容は、どのようなものだと良いと思いますか。お子さまと一緒に考えてお答えください。



「当番や送迎など、保護者の負担がない活動」、「初めての人でも気軽に参加できる、楽しむことを中心とした活動」、「運動や文化的な活動をする習慣を身につける」等の回答が多い。

Q⑩ 部活動地域移行後の活動に参加する場合、毎月の会費としていくらまでの負担なら許容できますか。



地域移行後の費用負担については、月1000円以下から月3000円程度までが約7割を占めている。

【参考資料】

・部活動地域移行に関するアンケート調査結果概要

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/001067387.pdf>

・部活動地域移行に関するアンケート結果

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/001097646.pdf>

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【地域バスケットボールクラブ・総合型地域スポーツクラブ指導者による指導】



【穴生中学校バレーボール・総合型地域スポーツクラブ指導者による指導】



【篠崎中学校陸上競技部・総合型地域スポーツクラブ指導者による指導】



【北九州市部活の未来を考える会の様子】

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

部活動地域移行について（R5～R9）

- ・ 拠点校型（エリア型）部活動の導入
- ・ 休日の学校部活動を地域クラブ等（保護者・スポーツ少年団・民間企業等）へ移行
- ・ 各種登録制度を整備

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
平日	週1回の休養日 原則2時間	週1回の休養日 原則2時間	週1回の休養日 活動時間の短縮	週2回の休養日 活動時間の短縮	部活動の完全平日化 週2回の休養日 活動時間の短縮
	教員 部活動指導員 部活動外部講師	拠点校型（エリア型） モデル	拠点校型（エリア型）拡充、周知 →		拠点校型（エリア型）の 開始
	合同部活動、連携部活動 →				
土日・祝	土日いずれかは休養日 原則3時間	休養日の拡大の周知	休養日の拡大 （第〇週は完全休養）	休養日の拡大 （第〇・〇週は完全休養）	休日は完全休養日 （中体連や中文連の主 催する大会のみ）
	教員 部活動指導員 部活動外部講師	人材バンクの整備 地域クラブ登録制 → の制度設計及び周知		地域クラブ登録制の開始	地域クラブ等へ移行
	モデル（運動3文化2）	モデル →			
その他	部活の未来を考える会	部活の未来を考える会 推進計画策定 市ガイドライン改定			
	学校施設の利用を検討 →			学校施設の使用（地域クラブ登録制度とリンク）	
	部活動地域移行に関する周知 →				